❖くるめクリーンパートナー募集

市内で558団体が美化活動中

日ごろの清掃活動でも

久留米市は、クリーンパートナーを募集しています。道路や公園、河川などの公共の場所で、ポイ捨てされたごみの清掃をするボランティアです。平成30年3月末現在、558団体、2万1102人が登録しています。

活動は、企業や学校、自治会や個人などで年に6回以上行い、年度末に報告書を提出します。会社や自宅の周辺道路などの清掃でも登録できます。希望があれば、団体や個人の名前の入った標示板を、活動地域内に設置します。

写真は久留米大学の学生。ゼミの仲間と登録しています

活動者名を伝える標示板

ポイ捨ても防止

昨年度は約26t、ごみ収集車約13台分のごみが集まりました。クリーンパートナーの活動が広がることで、まちがきれいになるだけでなく、活動を見た人が「ポイ捨てをやめよう」と思うきっかけにもつながります。

問環境政策課（☎0942・30・9146、FAX0942・30・9715）

クリーンパートナーQ&A

体験会もあります

みなさんの活動がまちの美化につながります。活動を行うときの疑問点を、担当の職員に聞いてみました。

環境政策課
山部真史さん

始めるには

環境部庁舎内にある環境政策課に活動内容、参加人数などを記入した申込書を提出してください。申込書は窓口、市のホームページにあります。

拾ったごみは

燃やせるごみと燃やせないごみに分けて、各収集日に出してください。汚れの少ないアルミ缶など分別できるものは資源物の収集日に出してください。

活動報告書とは

月ごとの活動回数や、ごみ袋を使った枚数などを記入し、年度末に提出してください。郵送やファクスでも受け付けています。

ごみ袋などは

クリーンパートナー活動専用のごみ袋や軍手、帽子、ベストを、窓口で提供しています。また、ほうきやちり取り、火ばさみの貸し出しもあります。

帽子は赤と紺から選べます

クリーンパートナー体験会 in（イン） あのく祭

学生と一緒に、久留米大学周辺を清掃します。帽子とベストは、参加者にプレゼント。

日時 11月4日(日) 13時30分～　**会場** 久留米大学御井キャンパス　**申し込み** 不要

くるめ学生通信 37

空き家の流通でまちに活気を

市内の大学生が、久留米市の仕事などを取材し、学生目線で発信するシリーズです。

問広報戦略課（☎0942・30・9119、FAX0942・30・9702）

市の空き家活用事業について、担当者の話を聞く久留米大学1年生の松尾明魅香さん（左）

最近、全国的に問題になっている空き家。通学途中の街なかや、大学の周りでも増えています。市役所で対策を行っていると聞き、担当の職員さんに尋ねました。

――久留米の空き家の状況を教えてください

平成25年の調査で、久留米市内の空き家数は約1万7000戸。空き家率は全国平均13・5％に対して12・4％です。

空き家の多くは、賃貸用や売却用として不動産業者が管理しているアパートやマンションなどの物件。しかし、市場に流通せず、管理されていない空き家の割合が増えていることが問題で、中でも一戸建ては放置されやすいのです。

――原因は何でしょうか

人口が減り住宅が供給過剰になっていることに加えて、高齢化が進んでいることが挙げられます。高齢になった持ち主が、病院や施設へ移った後、引き継ぐ子どもが居なかったり、居ても遠方で暮らしていたりというケースが増えています。また、建物を壊すと土地の税金が上がることも放置される原因の一つです。

――空き家が増えると困ることがありますか

不審者の侵入や放火、ごみの不法投棄を招きます。草木が生い茂って虫が発生したり、災害で倒壊したりするなど、周りの人に迷惑を掛けることもあります。地域の景観も損なわれてしまいます。

――どんな対策をしているんですか

市は、空き家を使える状態にして、賃貸や売買の市場に流通させるための支援をしています。

例えば、中古住宅を登録してもらい、市ホームページで紹介する「空き家情報バンク」。また、空き家を買って改修する時に費用の一部を補助する空き家活用リフォーム助成も行っています。相続や賃貸、売買の悩みに応じる相談会も定期的に開いています。

今年は新たに、専門家がリフォームのやり方を教える「空き家活用DIY体験会」を開催。改修のこつを学ぶことで、中古住宅を選ぶ人が増えればと思っています。

――活用が大切ですね

空き家が増えると、まちの活気が失われます。これは、まちづくりにとって大きなマイナスなのです。

最近は、空き家を安く手に入れ、自分のライフスタイルに合わせてリフォームを楽しむなど、新築よりも中古住宅を選ぶ人が少しずつ増えています。この流れが広がり中古住宅の価値が高まれば、空き家の活用がうまく進むのではと期待しています。

空き家情報バンクに登録された家を視察。管理や対策の難しさを実感しました

今は親の家でも、将来、私が管理を任される可能性もあります。空き家問題は、私たち若者も当事者であることに気付きました。

住宅を買うなら新築が良いと考えていましたが、取材後、中古住宅をリフォームして住むのもいいかなと思うようになりました。